

平成24年度で終了すべき連携・共同事業

NO	関係府省	提案の内容	連携・共同事業の具体的内容	成果・終了理由等
18	国土交通省	道路管理者が連携した案内標識の整備	<p>○道路管理者により都市内散策型の歩行者系モデル地区を選定する。</p> <p>○モデル地区について、道路管理者である国、道、市町村と地元観光協会等で構成した協議会を設立し、歩行者動線や統一的な表示内容等を検討するとともに、地域や道路利用者の声を聞きながら誘導すべき観光地を選定する。</p> <p>○ピクトグラムの活用等を図りながら案内標識計画を策定する。</p> <p>○モデル地区において計画を試行し、歩行者等を対象としたアンケート調査等による評価を行う。</p> <p>○計画評価に基づき順次整備を進めていく。</p>	<p>(これまで実施してきたことによる一定の成果等)</p> <p>北海道有数の観光地である小樽及び函館では、歩行者用案内標識が整備されているが、施設名称などの情報や標識デザインの整合性の欠如、老朽化などが課題となっていた。観光客の歩行者動線は管理者が異なる道路で構成されていることから、国・道・市からなる協議会を設立し、情報やデザインの統一を図るとともに、多言語表記やユニバーサルデザインを取り入れた、わかりやすい歩行者用案内標識の整備計画を策定し、道路管理者の協働により案内標識の整備を実施した。</p> <p>(連携・共同事業を終了する理由)</p> <p>小樽市では、平成19年2月に小樽案内標識整備計画を策定。平成19年9月から、小樽案内標識整備計画に沿って、小樽市内においては案内標識を順次設置していたところであるが、当初予定していたものが全て完了したため。(全56基設置済)</p> <p>函館市では、平成22年2月に函館市歩行者用案内標識整備計画を策定。平成22年3月から、函館市歩行者用案内標識整備計画に沿って、函館市内においては案内標識を順次設置していたところであるが、当初予定していたものが全て完了したため。(全104基設置済)</p>